

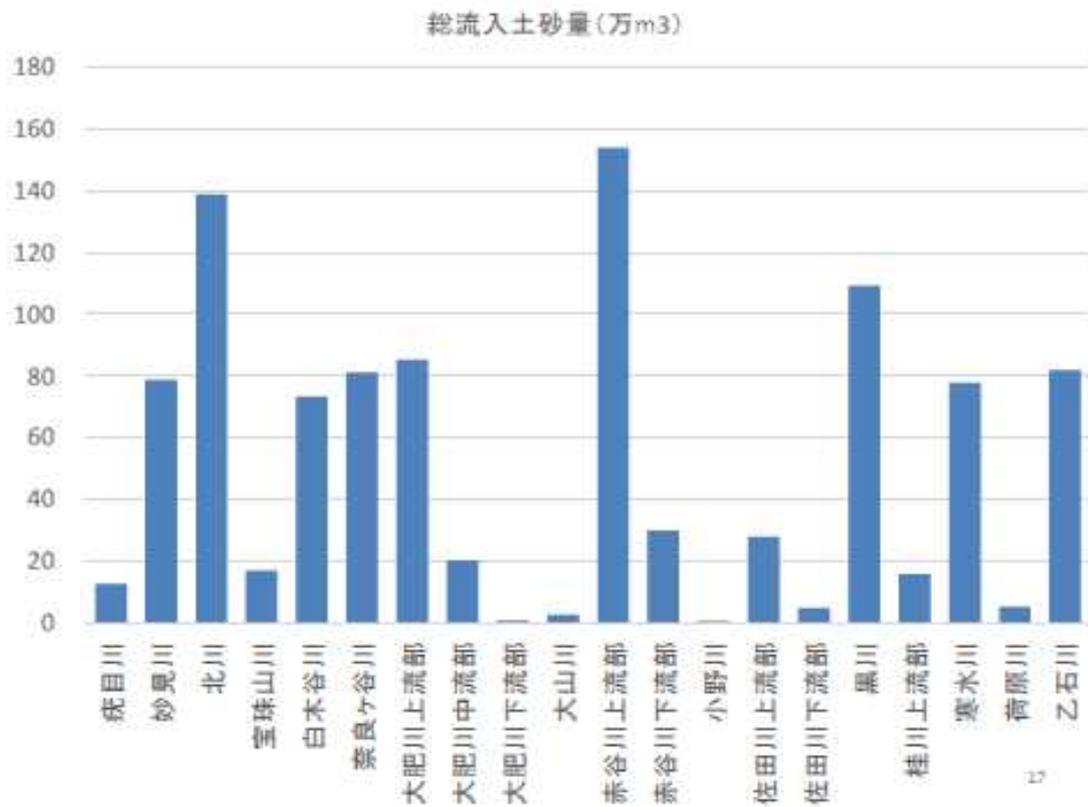
表 4 県別山腹崩壊地面積

区分	福岡県	大分県	対象地域全体
森林地域面積 (ha)	17,181.6	54,749.3	71,930.9
山腹崩壊地面積 (ha)	317.8	39.4	357.2
崩壊面積率 (%)	1.8	0.1	0.5

資料：九州森林管理局、福岡県、大分県調べ（平成 29 年 8 月末時点）

注：福岡県は朝倉市及び東峰村、大分県は日田市の森林地域が対象。
 国土地理院の被災後のオルソ画像による判読結果を基に、伐採跡地、無立木地を除いた面積を算出。

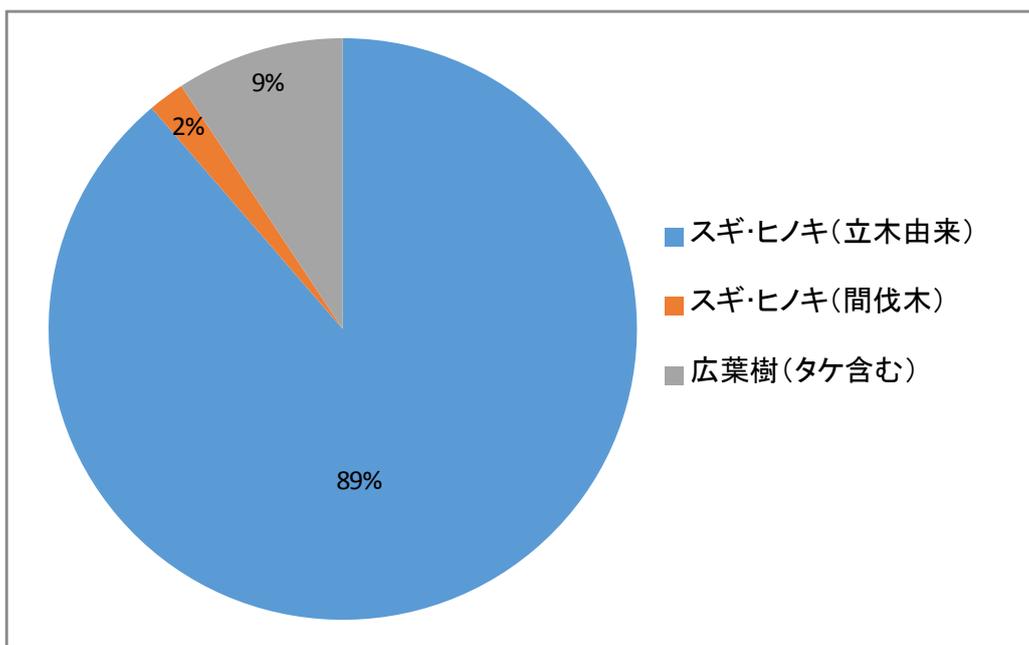
表5 発生土砂量の推定



出典：九州大学ホームページ「平成29年7月九州北部豪雨災害報告会（速報）」
 （平成29年9月13日） 「土砂災害」（九州大学 笠間清伸准教授）

表6 九州北部豪雨による流木の把握

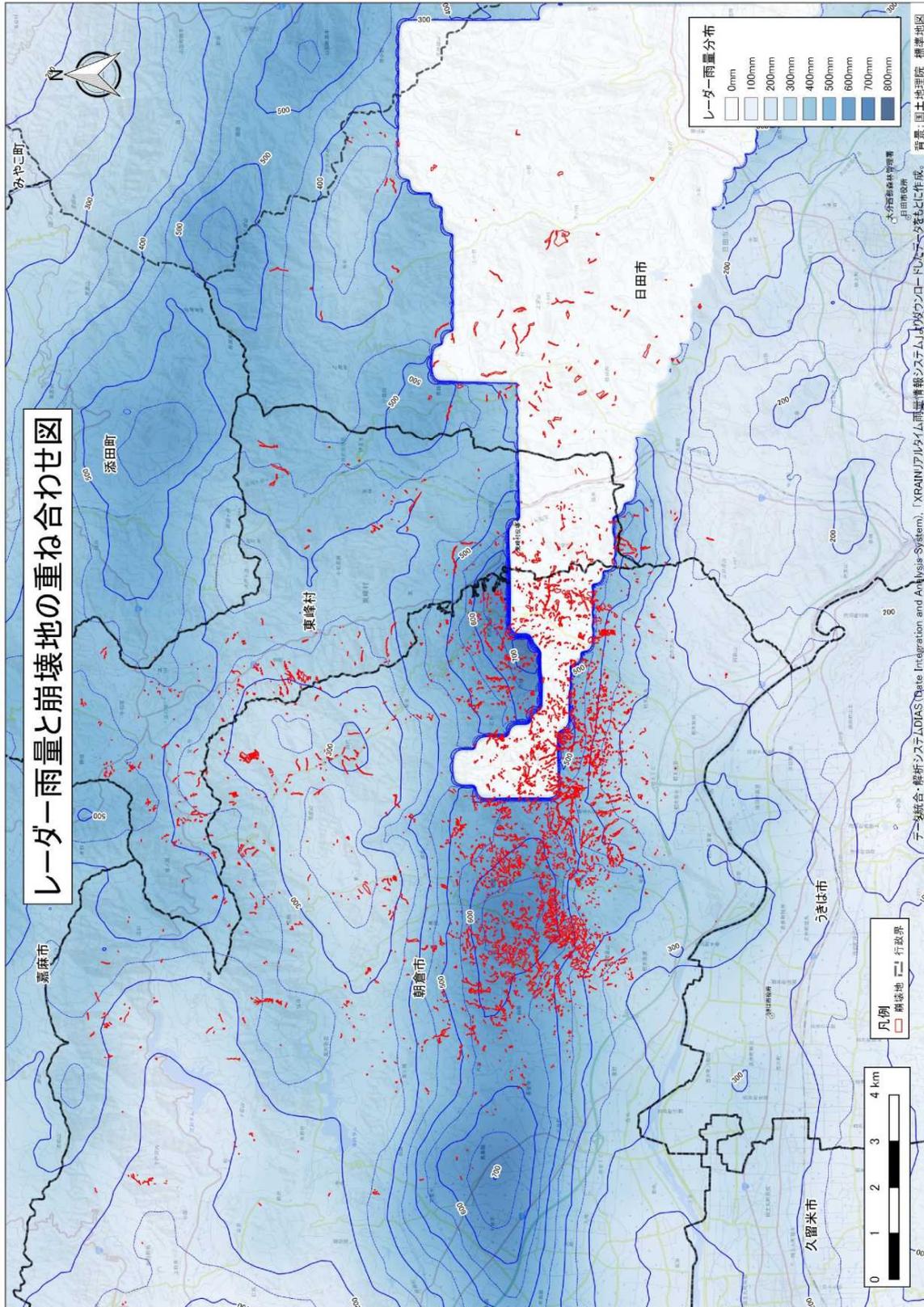
	日田市	東峰村	朝倉市	計
スギ・ヒノキ 立木由来	208本 (94%)	229本 (96%)	271本 (80%)	708本 (89%)
スギ・ヒノキ 間伐木	0本 (0%)	0本 (0%)	16本 (5%)	16本 (2%)
広葉樹 (タケ含む)	13本 (6%)	10本 (4%)	51本 (15%)	74本 (9%)
計	221本 (100%)	239本 (100%)	338本 (100%)	798本 (100%)



資料：林野庁調べ（平成29年8月2～3日）

注：流木の堆積箇所（福岡県朝倉市及び東峰村、大分県日田市）でサンプル調査を行った結果によるもの。調査した流木のうち、切断面があったものの本数割合である。

図3 レーダー雨量と崩壊地の重ね合わせ図



注：白抜き部分は、データの欠損エリアである。

図4 年最大日雨量の比較（福岡県朝倉市朝倉・大分県日田市日田）

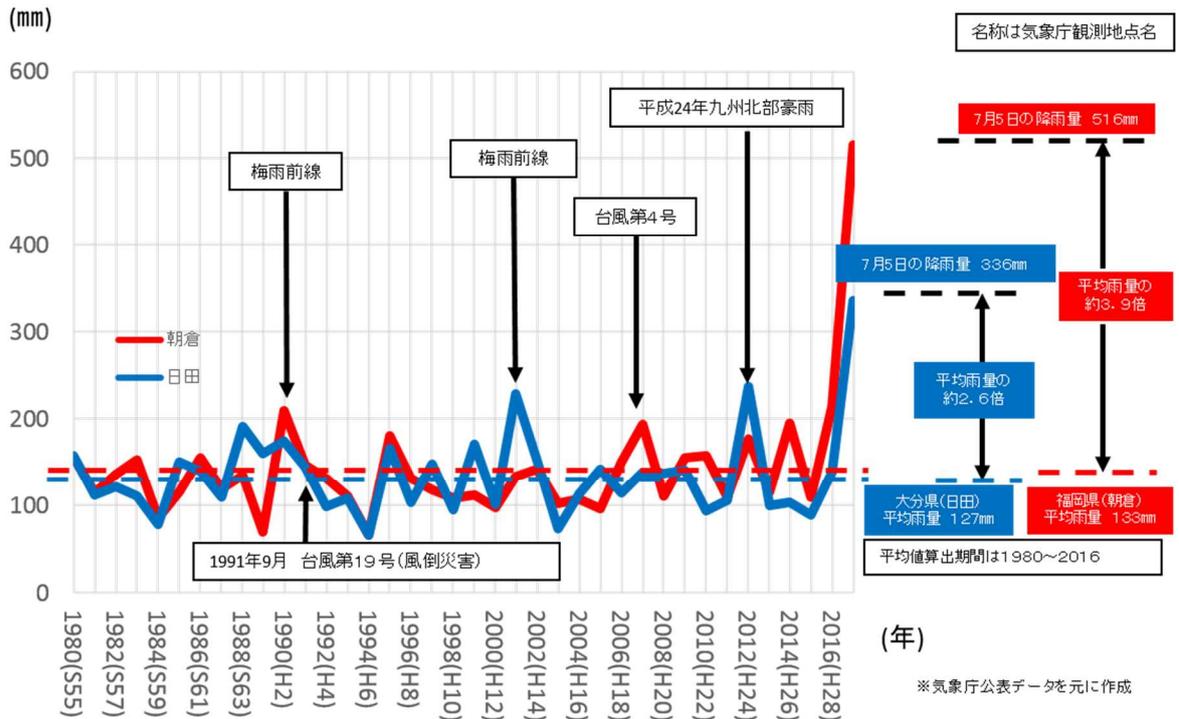
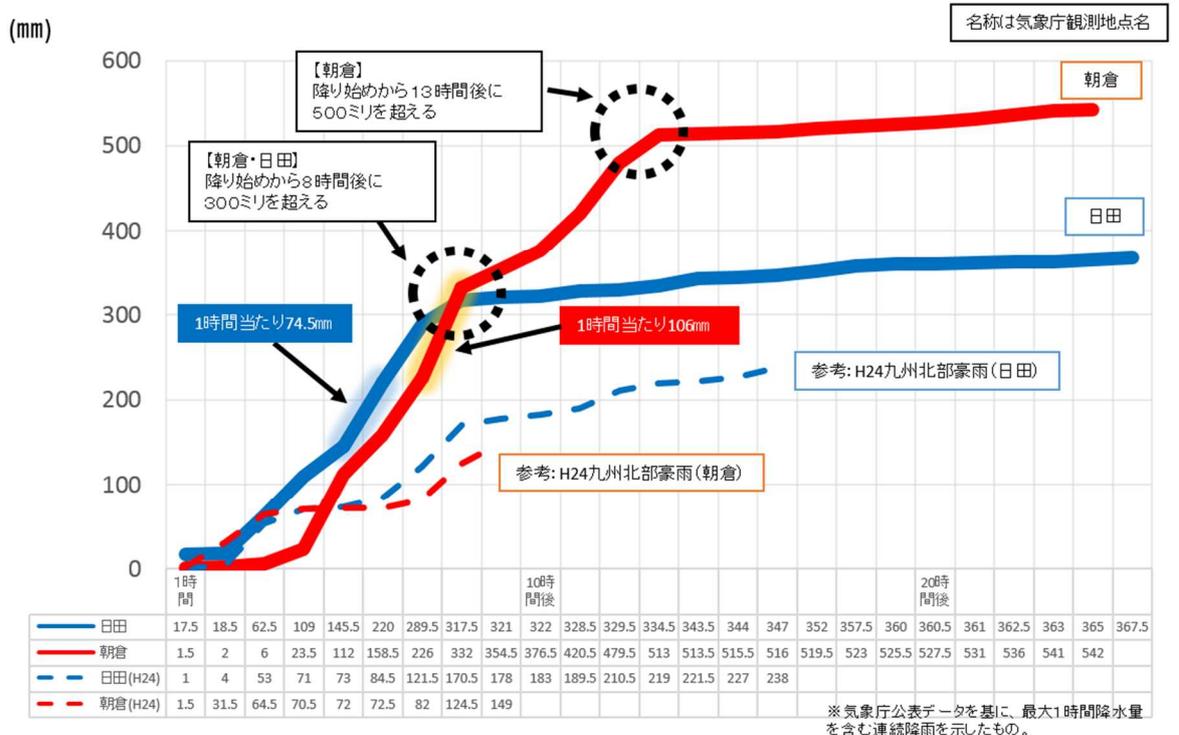


図5 累積雨量の比較（福岡県朝倉市朝倉・大分県日田市日田）



※ 福岡県朝倉市黒川の北小路公民館観測所（福岡県県土整備部）では、降り始めから10時間後に700ミリを越える累積雨量を観測。

図6 地質と崩壊地の重ね合わせ図

